

## 2011年台風12号にともなう豪雨による三重県宮川流域持山谷における岩盤崩壊と土石流

### Rockslide and debris flow at Mochiyamadani, Miyagawa River, Mie Prefecture induced by heavy rain of the Typhoon No.1112

永田 秀尚<sup>1\*</sup>

NAGATA, Hidehisa<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 有限会社風水土

<sup>1</sup> Fu Sui Do co. ltd.

2011年9月に日本に上陸した台風12号による豪雨は紀伊半島を中心に多数の斜面崩壊を引き起こした。これらのうち宮川流域持山谷での崩壊・土石流の事例を報告する。

崩壊は宮川本流との合流点から2km上流の尾根直下で発生した。概算される崩壊体積は、隣接する小崩壊を含めて約20万m<sup>3</sup>程度で、今回の豪雨によって発生した崩壊としては大きなものではない。発生域の地質は秩父帯に属する風化した砂岩で、構造的には流れ盤となるが、この構造の寄与は小さかったものと考えられる。この崩壊で特徴的なのは、崩壊から発生した土石流が、流送域の谷中に存在した2004年豪雨時の地すべりダムの堆積物を巻き込んだことである。これによって、移動土砂量は少なくとも1万m<sup>3</sup>のオーダーで増加した。流下した土石流は谷の砂防ダムや橋梁を破壊して宮川合流点に達し、一時的に本流をせき止めた。スーパーエレベーションの計測から、合流点上流での流速は18m/sに達したと推定される。

キーワード: 2011年台風12号, 宮川, 土砂再移動, 地すべりダム

Keywords: Typhoon No.1112, Miyagawa, sediment removal, landslide dam